

淀川自然観察会の紹介

「淀川自然観察会」は、公益社団法人 大阪自然環境保全協会(ネイチャーおおさか)の地域観察会グループの一つとして、「大阪自然環境保全協会の設立趣旨にもとづき、淀川の下流域を中心に自然観察会を組織したり、調査などとおして、自然環境保護思想の啓発や淀川の河川環境の維持向上に努めること」を目的に 1997 年 1 月に発足し活動しています。

淀川自然観察会の活動フィールド

大阪の玄関、阪急梅田から中津駅を過ぎると直ぐに、広大な淀川の姿が車窓から飛び込んできます。ここは大阪湾からおおよそ 7km 付近。潮の満ち干の影響を受ける汽水域(真水と海水が混じるところ)で、潮が引くと干潟(十三干潟)が現れ、干潟周辺には広大なヨシ原が広がり、四季をとおして多くの生き物と出会えることができ、「大阪府レッドリスト 2014」の生物多様性スポットの A ランクに選定されている、大都市大阪に残された貴重な自然空間で、生き物ワンダーランドといったところです。私たちは、この淀川の汽水域を主なフィールドとして活動しています。



阪急電車車窓からの淀川



自然の干潟(十三干潟)



広大なヨシ原



カンサイタンポポの群落



十三干潟のクロベンケイガニ



トノサマバッタ

淀川自然観察会、2020 年の活動

毎月 1 回程度、四季折々の淀川の生き物などをテーマに開催します。詳しい観察会の案内は、このホームページの「観察会予定」をご覧ください。毎月更新しています。

淀川自然観察会発足以来、雨天決行で開催してきました「淀川・十三干潟の野鳥観察会」は、3 月 22 日の観察会を最後に終了します。



野鳥観察会 (望遠鏡を覗く子どもたち)



野草料理の材料を採取 (新北野付近の堤防)



干潟の観察会 (海老江干潟)



カニ釣り (西中島のヨシ原)



バッタの観察会 (十三野草地区)



冬の河原で虫さがし (十三干潟前)